

ジュネーブ閣僚級会合
ステートメント骨子

2018. 11. 28
外務省

1. 冒頭

(1) 今次会合を共催したアフガニスタン政府及び国連に感謝。

2. 和平、治安、政治的安定

- (1) 先月に行われた下院選挙では、深刻な治安状況にも関わらず投票所に赴いたアフガニスタン国民の熱意と勇気に敬意を表す。選挙関連のテロ事案により犠牲に遭われた方への追悼の意を表す。
- (2) 自由で公正な選挙は民主主義の柱である。アフガニスタン政府が本選挙で直面した課題に対処し、4月の大統領選挙を公正かつ透明性のあるものとすることを期待。
- (3) ブリュッセル会合以降、顕著な進展が見られたとは言え、引き続き治安等様々な課題が顕在。
- (4) 和平プロセスは治安の改善に寄与。この点、日本は先般6月に初めて実現した一時停戦を歓迎しており、アフガニスタン政府主導の和平を支持。
- (5) 汚職対策及び行政改革についても、アフガニスタン側による更なる努力を求める。
- (6) 山本忠通事務総長特別代表兼UNAMA代表及びそのチームがアフガニスタン政府を支え、国際社会との調整的な役割を担っていることを評価。

3. 日本の貢献

- (1) 本年の未曾有の干ばつによる甚大な被害に対処するため、日本は、新たに13百万ドルの支援を決定した。
- (2) この他にも、日本はこれまで、アフガニスタンの基幹産業である農業・農村開発を支援。本年、日本は灌漑施設の整備と水利用の推進のため、約15百万米ドルを拠出。
- (3) この他、我が国は母子手帳やポリオの予防接種を推進すべく17百万米ドルの支援を決定。これらのプロジェクトがアフガニスタンの将来を担う子供達の命を救うために寄与することを確信。

4. 結語

- (1) 国際社会とアフガニスタン政府の関係は相互責任原則に基づくものであり、GMAFが策定されたことを歓迎。
- (2) 我々は今、「変革の10年」の折り返し地点という重要な局面にいる。アフガニスタンが真に独り立ちしていくために、今後、国際社会としてどうすべきか議論すべき時にきており、日本としても、積極的に議論に参画していく。

(了)